

**2026 年度 A O 選抜 文学部 国際コミュニケーション学域**  
**「人文学プロポーズ方式」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション学域	10	8	7

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

本学域に関連するテーマで、興味のある内容について、また、本学域で学ぶ意義と入学後に探究したいテーマについて、具体的かつ論理的な文章にまとめられているかどうかを評価しました。特に、本学域の学びを事前に理解する姿勢が見られるかに主眼を置き、事前にホームページ等を通してカリキュラムやプログラムについて調べてきているかどうかについても評価しています。

(2) 解答状況

提出された各書類は、全体として期待される水準をおおむね満たしており、その中でも特に高い水準に達しているものも見られました。本学域で提供する学びの内容や、入学後に探求したいテーマとの整合性についても、非常によく合致しているものと、概ね一致しているものがありました。課題レポートでは、関心を持つテーマについて具体的かつ論理的に展開できているものが多く、なかには論旨が明快で説得力のある文章でまとめられた優れたものも見受けられました。また、入学後に探求したいテーマと学習・活動計画については、探求すべきトピックが明確に設定され、実現可能で具体的な学習計画が立てられているものが多くありました。総じて、提出書類の内容は本学が期待する水準を十分に満たしており、今後の学びへの意欲と可能性が感じられるものでした。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

プレゼンテーションでは、課題レポートの記述内容に沿ってテーマが設定されているか、議論が論理的に展開されているか、また、資料が適切な分量と見やすさを意識して作成されているかについて評価しました。また、発表の質疑応答についても質問の趣旨を理解し、適切に答えられているかどうかを見ました。面接では、エントリーシート、プロポーザルシートの記載内容だけでなく、本学域での学びに関連する内容についての質問にも適切に回答できているかどうかを評価しました。

(2) 解答状況

プレゼンテーションでは、資料が見やすく整理され、議論の立て方や発表構成にも十分な配慮が見られるものがありました。一方で、議論の流れをもう少し整理し、主張を補強するための明確な根拠を提示することで、説得力をさらに高められると思われるものもあ

りました。また、一部のスライドでは参考文献の明記が不十分なものが見受けられました。引用や参照を行う際には、出典を適切な形式で明示することが求められます。面接においては、ほとんどの受験生が質疑応答に丁寧に対応し、質問の趣旨を正確に理解した上で、適切な回答を行っていました。全体として、誠実で熱意のこもった受け答えが印象的でした。

### (3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

課題レポートの記述内容に沿って、国際コミュニケーション学域の学びに関連するテーマに興味をもっていることについて資料を作成し、その資料に基づくプレゼンテーションを行ってもらいました。また、プレゼンテーションの内容に関する質疑応答と出願書類の内容に基づく質疑応答を面接で行いました。

### (4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

自身の興味関心が本学域で提供する学びと合致するか、そしてその内容を論理的かつ明確に示すことができているかに注目しています。また、これまでの経験や学生生活での学びをきっかけに、本学域への入学後に探求したい「問い」を設定できているか、学問に対する積極性や真摯さが見られるかを確認するための出題になっています。

### (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

プレゼンテーションのトピックに直接関わる内容だけでなく、そこから派生する周辺的な事象についても積極的に学び、知識を広げていく姿勢をぜひ身につけてほしいと思います。そうした探究を重ねることで、関心の幅がさらに広がり、研究テーマにもいっそうの深まりと発展が期待されます。

以上